

紋章を刻まれ
意識を手放してから
どれくらい時間が
経ったのか

目を覚ますと
そこには――

オキロツ!!

乙女の
淫らな声が
響き渡っていたのです

ここは…カグツチ…
…それに皆も…

皆お腹に紋章が刻まれ
犯されている…

それに今――
怪物がしゃべった…
ううん、違う

「ヤット
起キタカ女」

彼らが喋るたびに
下腹の刻印が疼いて
響くように
伝わってくる

ドライバーとの
繋がりと違う…

逆らえない…
従属させられ
たように…

でも…まだ諦めないわ…

体はボロボロだけど
まだ私は孕んでない…

隙が生まれるはず…
孕まなければ
きっとチャンスが…

「ママ自カケハ
孕マナイト
思ッテイルノカ?」

見回！
仲間力
無様ニ孕ム瞬間ヲナシ

「あああああっ!!」

「いやっ
やめなさいっ!!」

「ムンムン!!」

「あぐうっ!!」

「そんなに激しく
突かれたらっ!!」

「ドゥドゥ
卵ヲビリ出せ!!」

「どうしてっ……
エーテルが……
……うまく……
使えないのっ……」

「だめ……このままじゃ
卵子が……排卵して
しまいうっ!!」

「体の……
体の奥から
また……」

「ムンムン!!」
抑え……きれ……
な……いい……っ!!」

「ムンムン!!」
見回ミ回ミ!!

「ムンムン!!」
排卵シタツツ!!

「いや、いやあああ!!
どうして……どうしてええっ!!」

「あぐうあっ!!」

「ダメ出さないで
卵子守れないから……っ!!」

「膝又回、才前の子袋ハ
トツクニ墮チテルンタヨ」
「待ッテロ
スクニラツカケテ
空マセデヤルカラナヤ!!」

「やめて!
孕みたくないっ!!」

「ムンムン!!」
ムンムン!!

「あああっ!!
出すなああっ!!」

「あっ!!」

「い……ああっ!!」

「あああああああああ……っ!!」



「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「アッ!」

「う……うう……」

射精から数分……

「だ……め……こんな……
こんな奴の種に……
私の……大事な卵子が……」

お腹に刻まれた紋章から
黒い煙のような
ものが昇る……

第二の凌辱者が
カグツチの体内で
無抵抗な
卵子に群がる

「……アアアアッ!!」

ズクン……と

カグツチのうめき声
同時に彼女の体内で
混ざるエーテル……

化け物の子を
孕んだのです……

そして……

「ああ……
ニア……そんな……
ひどい……」

精液で真っ白に
染め上げられた体
赤く腫れた秘所

露出した子宮と
化け物の胎児

一体どれだけ
激しく犯され
だろう……

コイツハ俺ガ
最初ニ
孕マセタ雌ダ

孕まされると
どうなるか……
それを見せつけ
られたのです





トイウノミ

なぐ なぐ

ドンナニ抵抗シテモ
コノ淫紋ノ前デハ
「雌」デシカナインダヨ

怪物の生殖器が
また大きくなり始めた

まだ回復してない
私の膈内を更に
蹂躪するために



イッ...

ヒカリちゃんと
まだ交信が出来ない...

でも、私がまだ
孕まずにいるのは
ヒカリちゃんがこの
紋章の効果を防いで
くれるから...

だから排卵せずに
コントロールが
できてる...

きつとヒカリちゃんも
私の中で戦ってるはず

それまで私が
折れるわけには
いかない!!



グッ...

でも...
あああ...嘘...
さっきより大きい...

ヒカリちゃん...
お願い...

私が...

折れる...

早く...
...来て...

ヒカリちゃん...

ヒカ...リ...ちゃ...